



VOL.7  
2020.4.10 発行



半田営業所 所長 倉田 正利

1985年(昭和60年)に南星キャリアクス株式会社へ入社以来、35年以上にわたって事業の発展に貢献してきた倉田正利さん。所長として半田営業所へかける熱意や、後継への思いについて迫りました。

——まず、現在の業務内容について教えてください。

人材や売上などの管理業務、配車の手配などが仕事ですね。半田営業所は会社から授かった一つの会社であると思っています。目指しているのは、少しでも利益を上げて、社員全員居心地よく働ける「明るい職場」です。

——半田営業所ではどのような案件を扱っているのですか。

ここは特殊で、塗料を専門にしています。塗料を自動車関係の工場まで運び、タンクに流し込む注入作業まで担っているのです。一般的な運送

業と違って経験やマニュアルが必要不可欠ですね。

日本ペイントさんの高浜工場、エースペイントさんの豊明工場が主なお客様なのですが、どちらも半田から距離があるので、普段は社員が常駐しています。社員が営業所に戻ってくるのは午後6〜7時頃。全員が顔を合わせるタイミングが少ない分、電話などを使って情報を共有するように心がけています。

——塗料という特殊な商品を扱う上で、大変なことはありますか。

日本ペイントさんは業界の中でも2大メーカーと呼ばれ、環境対策などのルールに厳しいお客様です。小さなトラブルが大きなクレームに繋がるので、いろいろな対策を練っています。

心に残っているのは10年程前に起きたトラブルです。注入作業中にホースがはじけて塗料がこぼれてしまったら、長く勤めてもらえる職場にしていきたい。また、目標をもつのはとても大切だと思うので、所長を一つの目標にしてもらえるよう、励みとなる存在になりたいと思います。

社員や会社の未来のため、挑戦を続ける倉田さん。その情熱はこれからも変わらずに燃え続けていくことでしょう。



まったことがあります。環境に良くない、絶対に起きてはならない事態です。現場の社員に連絡をもらったときは頭が真っ白になりましたが、冷静にできることを対応していくのみだと切り替え、すぐに謝罪へ向かって清掃と対策書の作成をしました。いくらマニュアルがあっても、ヒューマンエラーや慢心は誰にでも起こります。最終的にはドライバーさんに気をつけてもらうしかないのですが、どうしたらミスを最小限に留められるかを考え、チェックシートを改良して全員で共有しました。このような経験を何回も繰り返して、ここ数年は大きなトラブルを防いでいます。

——日頃の業務の中で最も重きを置いているのはどんなことですか。

円滑に配車を手配することですね。前日に届いたお客様からのオーダーをもとに配車の手配をするので

すが、毎日数量が違う上、当日の追加がある場合があります。過去には、当日になって5000缶の追加が出た日がありました。これを輸送するには、8台以上の大型車を大至急用意しなければなりません。いろいろなところに連絡をしてもあと1台、2台が見つからず、焦りましたね。そのときは他の営業所に電話をして情報を集め、何とか事なきを得ましたが、車が見つからない日は家に帰っても気が休まりません。最近は数量が落ちてきましたが、連休前や年末、年度末の繁忙期は注意しています。

——半田営業所への思いを聞かせてください。

17〜18年前に名古屋の次長から異動して、ここで初めて所長に就任しました。当時はドライバー9人と職員数名しかいない小規模運営で、いくつか大きな事務所にしたいなと思っていました。社長の指示で塗料に特

——最後に、今後の目標を教えてください。

定年まであと2年のカウントダウンを迎えたので、後継にバトンを渡す準備をしていきたい。基盤として、若手が働きやすく、意見を言いやすい環境づくりが重要となる。昔のようにならなから抑え込むのではなく、若い人々と同じ目線に立って考えたいと思います。

私が長く勤められたのは、会長や社長に恵まれたのももちろんですが、南星キャリアクスが好きだから。35年が経つ今でも会社が好きです。なので、みんなにもそう思ってもら